

画面操作手引書		システム名	医療用具情報提供システム	サブシステム名	添付文書掲載	作成日	2004/2/1	作成者	島内
15-2. ファイル掲載メッセージ						更新日		更新者	

```

/*****
/* 改訂指示対象チェック
/*****
・添付文書ファイル中の承認番号確認
この承認番号は改訂指示対象確認がされていないため、使用できません。(CODE = ' + br_code.get(i) + "')
システムエラー。システムサポートまでご連絡下さい。

/*****
/* 一般公開のバージョンをチェック
/*****
・一般公開用添付文書バージョンチェック

“現在掲載中または掲載予定のデータとバージョンが同一のため”
“掲載はできません。(掲載Ver:” + theForm.getold_version() + “)”

“現在掲載中または掲載予定のデータよりバージョンが古いため”
“掲載はできません。(掲載Ver:” + theForm.getold_version() + “)”

“この添付文書情報は[新規掲載]ボタンからは処理できません。”
“すでに掲載されているバージョンの[更新] ボタンから処理してください。”

/*****
/* SPによるパーサチェック
/*****
パーサチェック (SP) が異常終了しました。
パーサチェック (SP) でエラーが発生しました。

/*****
/* &enter;チェック
/*****
“\r\n”の後にセミロン(:)がありません。”
不正な位置に\r\nがあります。メッセージ = (“ + tmp + “)”
variablelabel: 終了タグなし

/*****
/* 添付文書の原本保存
/*****
システムエラー。システムサポートまでご連絡下さい。

/*****
/* イメージファイル名等の不要文字の削除
/*****
システムエラー。システムサポートまでご連絡下さい。

/*****
/* SHIFT-JIS定義の存在チェック
/*****
・DTD宣言がSGMLファイル中に見つかりません。
システムエラー。システムサポートまでご連絡下さい。

```

画面操作手引書	システム名	医療用具情報提供システム	サブシステム名	添付文書掲載	作成日	2004/2/1	作成者	島内
					更新日		更新者	

```

15-2. ファイル掲載メッセージ
/*****
/* パーサチェック
/*****
パーサーチェックが異常終了しました。
パーサーチェックでエラーが発生しました。
/*****
/* 使用できるタグチェック
/*****
SGMファイル中の'<'>'の数が含まれません。
SGMファイル中の&lt; + &tagは使用できません。
/*****
/* 企業名のチェックを行う
/*****
製造販売業者の氏名又は名称及び住所の取得に失敗しました。(Name-of-distributor)タグがありません。
製造販売業者の氏名又は名称及び住所の取得に失敗しました。(Name-of-distributor)タグがありません。
製造販売業者の氏名又は名称及び住所の取得に失敗しました。(Name-of-distributor)タグにテキスト入力がありません。
/*****
/* ファイルのDB登録
/*****
添付文書のDB登録に失敗しました。
/*****
/* 正常終了
/*****
・添付文書の確認が正常に終了しました。

```



資料5

添付文書情報の電子ファイル作成の手引き（第1版）

# 添付文書情報の電子ファイル作成の手引き (第1版)

平成16年 3月12日 (DTD Ver. 0.992)

# 添付文書情報の電子ファイル作成の手引き目次

－ SGML／添付文書情報文書型定義と PDF ファイルの作成－

もくじ

§ 1. SGML／添付文書情報文書型定義 Version0.992 ファイル	3
1. 添付文書情報 SGML ファイルの概略	3
2. 添付文書情報の SGML ファイルの仕様	4
2. 1 SGML ファイルの名称	4
2. 2 画像情報ファイルの名称等	5
2. 3 入力する文字コードについて	5
3. SGML ファイルの作成方法と凡例	6
3. 1 SGML ファイルの記述	6
3. 2 作成された SGML ファイルの確認	16
4. 添付文書情報の SGML ファイルの各記載項目について	17
4. 1 添付文書	21
4. 2 添付文書の作成又は改訂年月日	23
4. 3 承認・届出等	24
4. 4 一般的名称	29
4. 5 警告	30
4. 6 禁忌・禁止	32
4. 7 形状・構造等	36
4. 8 性能、使用目的、効能又は効果	54
4. 9 操作方法又は使用方法等（用法・用量を含む）	58
4. 10 使用上の注意	63
4. 11 作動・動作原理	82
4. 12 臨床成績	83
4. 13 貯蔵・保管方法及び試用期間	84
4. 14 取扱い上の注意（記録の保存（特生の場合））	87
4. 15 保守点検に関わる事項	88
4. 16 承認条件	91
4. 17 包装	92
4. 18 主要文献及び文献請求先	93
4. 19 製造販売業者の氏名又は名称及び住所	96
4. 20 国内の製造所の氏名又は名称及び住所	105
4. 21 海外の製造所の氏名又は名称及び住所	108
4. 22 付属機器の取扱い及び説明	113
4. 23 ダウンロード	113
4. 24 その他の安全性情報	115
5 参考	117
5. 1 SGML の表示（表現）方法について	117
5. 2 SP を利用した SGML ファイルの文法点検の概略	118
6 資料	119
6. 1 添付文書アトリビュート項目	119
6. 2 クラス分類タグ	122
6. 3 DTD ER 図	124
6. 4 SGML 入力サンプル	139

## § 1. SGML／添付文書情報文書型定義 Version0.992 ファイル

### 1. 添付文書情報SGMLファイルの概略

添付文書情報の SGML ファイルはあくまでも添付文書の電子文書データであり、添付文書を再現するものではない。添付文書情報の SGML / DTD は添付文書情報のデータ構造に合わせて項目を配列したデータ交換フォーマットであり、記載順序、構造、レイアウト等はオリジナルと異なる。

添付文書情報の SGML／DTD へのデータ入力の実則は、以下の通りである。

- (1) SGML ファイルは、添付文書の記載事項を単に羅列して入力されたものではなく、各項目の記載事項を整理分類して入力することによって、構造を持たせた情報として再現できる。従って、添付文書の記載事項で、関連する項目は関連付けに注意して入力する必要がある。例えば、「性能、使用目的、効能又は効果」(群) 毎に「使用目的」が定められている場合、各々の「性能、使用目的、効能又は効果」(群) に関連付けて、その「使用目的」を入力する。
- (2) 該当する記載事項がない項目については、データを入力する必要はない。テンプレートインスタンスを用いて入力する場合は、その該当項目のタグを削除するか、または項目の順序番号を `<serialno onoff="off">` とする。なお、削除する際には該当する開始タグからそれに対応する終了タグまでを全て削除する。(該当する項目の順序番号を `<serialno onoff="on">` のままで変更しないと、HTML に変換された際に表示が乱れる。)
- (3) 記載事項が複数に分かれて記載される可能性がある項目については、順序番号を設けて同一項目に複数の事項を繰り返し入力できるように構造化されている。当該項目の順序番号には、添付文書の記載順に 1、2、3、・・・と番号を入力する(記載事項を分割して入力する必要がない場合であっても「1」と入力する)。なお、順序番号は半角数字を用いて入力すること。
- (4) 添付文書の各項目に付されている見出しの番号は、システムに表示される際にデータベースシステムによって順序番号が自動的に付与されるので、入力する必要はない。なお、見出し番号を表示させない場合は、順序番号が表示されないよう `<serialno onoff="off">` とする。
- (5) 「医療用具情報提供システム」では SGML ファイルは HTML ファイルに変換されて表示される。その際、通常は `variablelabel` (変数名ラベル名) は表示されない。ラベル名を表示する場合は `<variablelabel onswitch="on">` と、タグを修正する。表を表示する場合には、`<tblblock><variablelabel onswitch="on">表組</variablelabel>` とする。
- (6) 単一の項目として入力すべき事項であって、添付文書において改行により段落等の区切りを設けて記載している場合は、改行箇所改行記号「`&enter;`」を挿入し、入力内容を参照する場合に見易くなるように配慮する。
- (7) レベル別明細が設けられている項目では、添付文書において中、小項目に細分して記載している場合は、その区分に従い下位レベルに記載事項を入力する。なお、レベル別明細が設けられている項目は、レベル 1 を最上位のレベルとして入力する。
- (8) データを文字情報として入力することが不可能な場合は、画像処理データとして別ファイルを作成し、該当する項目に画像情報ファイルである旨のタグを設けて、そのファイル名を入力する。】
- (9) 注意書き等を入力する場合は、改訂記号の「\*」との混同を避けるために「注」又は「※」等に置き換えて入力する。

## 2. 添付文書情報のSGMLファイルの仕様

### 2.1 SGMLファイルの名称

企業コード	_	添付文書管理コード				_	添付文書バージョン	.sgm
		承認番号	_	枝番	_	バージョン		
6桁		17桁					2桁	
※1	※2	※3				※2	※4	※5

1) ファイル名の事例：「123456\_1234567A9012\_1\_01\_01.sgm」

2) 文字は全て半角を用いること。ファイル名のアルファベットは大文字、小文字の何れでも良いが、拡張子は必ず小文字を用いること。

3) 4. 添付文書情報のSGMLファイルの各記載項目について 4.1 添付文書番号の項参照

\*1: 6桁の会社コードを半角で入力する。

\*2: アンダーバー（半角）を用いること。

\*3: 添付文書管理コード（バージョンも含む）

\*4: 一般公開後にPDFファイル追加、ミスタイプ、添付文書の改訂年月日を変更しないようなマイナーチェンジでもバージョンNoを更新する。「01」からスタートし、以降「02」、「03」と連続して大きな番号を付す。なお「99」の次は「a0」、「a1」、「a3」とアルファベットを用いて表現する。

\*5: 半角小文字で「.sgm」とすること。「SGM」と大文字のファイルで提出すると掲載のチェックでエラーになる。



## 2. 2 画像情報ファイルの名称等

2.2.1 画像フォーマット：gif,jpg (画像の拡張子) の何れかを使用すること。DTD 上では、GIF、JPEG 以外の画像フォーマットとして WMF、BMP も定義しているが、汎用性やインターネット上での使用を考慮して、添付文書情報の画像には GIF 及び JPEG 形式の画像フォーマットを用いること。なお、画像の拡張子は其々の処理方法のデフォルトのものを使用する。

### 2.2.2 ファイルの名称

企業コード	_	添付文書管理コード	_	添付文書バージョン	_	figXX	.xxx
SGMLファイルと同じものを用いる						※1	※2

※1 XX は画像ファイル毎に異なる 2 桁の番号 (半角数字)

※2 画像の拡張子で.gif、.jpg のいずれかにすること。

### 2.2.3 画像ファイルのサイズ

画像ファイルは画像として表示したときに文字等が判読可能であることが必要である。画像ファイルのサイズは、画面に収まる大きさを基準とするが、概ね次の大きさを目安にされたい。

- ・構成図：底辺のサイズが、60ドット程度

### 2.2.4 PDFファイルの名称

企業コード	_	添付文書管理コード	_	添付文書バージョン	_	.pdf
SGMLファイルと同じものを用いる						※1

※1 半角小文字で.pdfとすること。

### 2.2.5 GIF 画像のライセンスについて

GIF 画像を使用する場合には、使用しているペイントソフト等が、UNISYS 社から正式ライセンスを受けている必要があります。

ライセンスを受けていないソフトウェアを使用しての GIF 画像を作成することは、ライセンス違反になりますのでご注意ください。

ご利用のソフトウェアがエンドユーザに正式にライセンスされている限り、基本的に米国 UNISYS 社よりライセンスを取得する必要はありません。

## 2. 3 入力する文字コードについて

入力に用いてよい文字コードは次のとおりである。

- (1) シフト J I S コードを用いて入力すること (その他のコードを内部コードとしているコンピュータを使用して入力する場合は、ファイル内の文字コードをシフト J I S に変換する)。
- (2) 半角カナ文字は使用しないこと。
- (3) ギリシャ文字は全角で入力すること。
- (4) 半角の '>'、'<'、'&' はそれぞれ &gt;、&lt;、&amp; に置き換えて入力する。
- (5) J I S の第 1 及び第 2 水準外の漢字は、平仮名を用いて入力する。ただし、著者名で現在使用されていない漢字で、当用漢字に新しい字体があるものは、新しい字体に変更して入力する。
- (6) 「①」等の修飾数字は用いないこと (適宜、同様の内容を示す文字に置き換えること。例えば、ギリシャ数字は「V」、「X」、「I」を組み合わせで記載する)。

### 3. SGMLファイルの作成方法と凡例

#### 3.1 SGMLファイルの記述

SGMLファイルでは情報に「<」と「>」で囲まれたタグと呼ばれる目印を付けて記述する。添付文書情報を記述するには添付文書情報用のDTDに定義されたタグを用いてDTDで定められた文書構造に従いファイル（インスタンス）を作成する必要がある。ここでは添付文書の記載事例がどのようにSGMLインスタンスとして記述されるかを紹介する。

##### 3.1.1 SGMLファイルの記載事例

次の事例は添付文書の「重要な基本的注意」の項を添付文書情報用のDTDに従って記述したSGMLインスタンスである。

・添付文書の記載

重要な基本的注意

1. 重要な基本的注意

- (1)手術に先立ち、本眼内レンズ挿入の対象となる患者に、本眼内レンズの使用にともなって予期される効果と有害事象等について十分に説明すること。
- (2)本眼内レンズは後房に挿入すること。前房への挿入の安全性及び有効性は確認されていない。
- (3)眼内レンズ挿入の長期安全性及び有効性は、未だ確立されていない。従って、術後も患者を定期的に受診させ、経過を観察すること。

SGMLインスタンス（重要な基本的注意）

```
<Important-precautions><variablelabel onswitch="on">重要な基本的注意</variablelabel>
<serialno onoff="off"><variablelabel onswitch="off">順序番号</variablelabel>1</serialno>
<detail><variablelabel onswitch="off">重要な基本的注意</variablelabel></detail>
  <low1subitem><variablelabel onswitch="off">レベル 1</variablelabel>
  <serialno onoff="on"><variablelabel onswitch="off">順序番号</variablelabel>1</serialno>
  <item><variablelabel onswitch="off">項目名</variablelabel></item>
  <detail><variablelabel onswitch="off">内容</variablelabel>重要な基本的注意</detail>
    <low2subitem><variablelabel onswitch="off">レベル 2</variablelabel>
    <serialno onoff="on"><variablelabel onswitch="off">順序番号</variablelabel>1</serialno>
    <item><variablelabel onswitch="off">項目名</variablelabel></item>
    <detail><variablelabel onswitch="off">内容</variablelabel>手術に先立ち、本眼内レンズ挿入
    の対象となる患者に、本眼内レンズの使用にともなって予期される効果と有害事象等について
    十分に説明すること。</detail>
    <serialno onoff="on"><variablelabel onswitch="off">順序番号</variablelabel>2</serialno>
    <item><variablelabel onswitch="off">項目名</variablelabel></item>
    <detail><variablelabel onswitch="off">内容</variablelabel>本眼内レンズは後房に挿入する
    こと。前房への挿入の安全性及び有効性は確認されていない。</detail>
    <serialno onoff="on"><variablelabel onswitch="off">順序番号</variablelabel>3</serialno>
    <item><variablelabel onswitch="off">項目名</variablelabel></item>
    <detail><variablelabel onswitch="off">内容</variablelabel>眼内レンズ挿入の長期安全性及
    び有効性は、未だ確立されていない。従って、術後も患者を定期的に受診させ、経過を観察
    すること。</detail>
  </low2subitem>
</low1subitem>
</Important-precautions>
```

ここで< Important-precautions > や<variablelabel> はタグと呼ばれる目印であり、この後ろに D T D で指定された情報等が格納されることを示す開始タグである。また、</variablelabel> や</ Important-precautions > はそれぞれ<variablelabel> < Important-precautions > に対応して、格納場所等が終了することを示す終了タグと呼ばれている。添付文書情報の S G M L インスタンスは D T D で定められた規則に従って、指定されたタグを用いて正しい場所に情報を格納する必要がある。

### 3.1.2 データ入力のお考え

#### 3.1.2.1 S G M L ファイルの構成

##### 3.1.2.1.1 最小単位

下記に示すものが S G M L ファイルの最小単位であり、これがまとまり「項目」となる。

#### SGML テンプレート

<項目名タグ>	<variablelabel>	ラベル名	</variablelabel>	添付文書内容	</項目名タグ>
---------	-----------------	------	------------------	--------	----------

##### 3.1.2.2 項目の分類

各項目の分類は「リスト形式」、「リスト形式とレベル別明細」、「表」に分類される。

###### 3.1.2.2.1 リスト形式：階層的（段落的）に入力できない。

既に入力する内容が決められているものと任意で記載できるものがある。

- ・入力する内容が決められているもの

例：一般的名称

```
<General-Name><variablelabel onswitch="on">一般的名称</variablelabel>
<serialno onoff="off"><variablelabel onswitch="off">順序番号</variablelabel>1</serialno>
<item><variablelabel onswitch="off"> J Q コード</variablelabel>123456</item>
<detail><variablelabel onswitch="off">一般的名称</variablelabel>眼内レンズ</detail>
</General-Name>
```

- ・任意で記載できるもの

例：包装

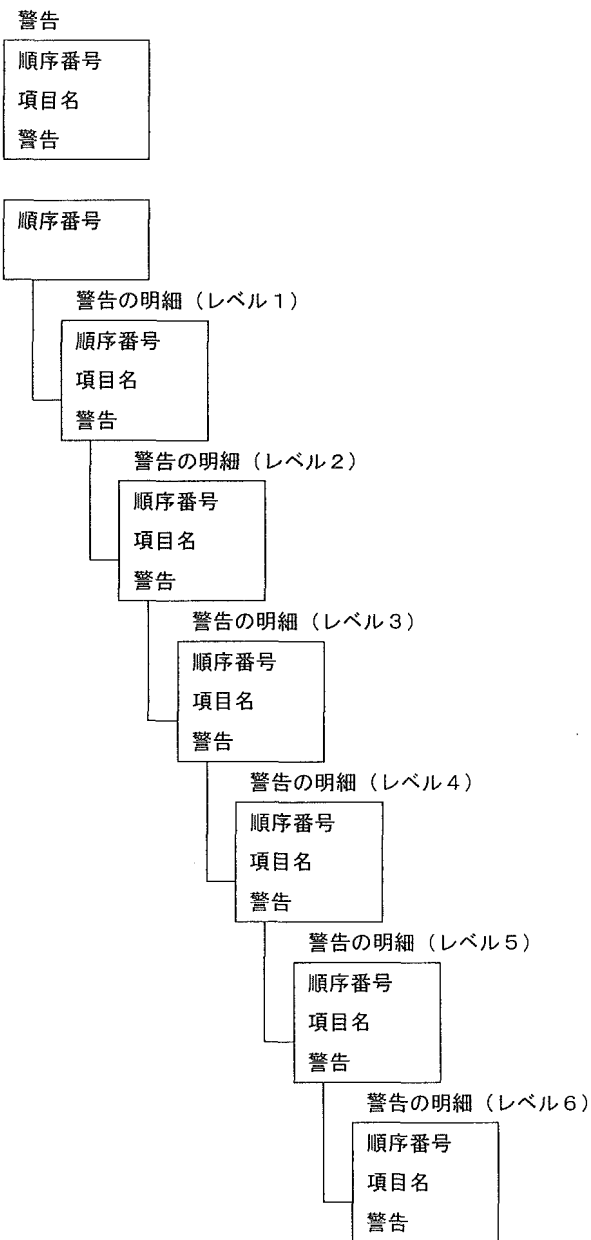
```
<Packaging><variablelabel onswitch="on">包装</variablelabel>
<serialno onoff="off"><variablelabel onswitch="off">順序番号</variablelabel>1</serialno>
<detail><variablelabel onswitch="off">包装</variablelabel>1 枚単位</detail>
</Packaging>
```

###### 3.1.2.2.2 リスト形式とレベル別明細

- ・レベル別明細の構成はリスト形式（箇条書き的な入力）とレベル別明細（階層構造、段落的な入力）の両方が用意されており、レベル別明細の場合、6 段落まで入力できる。（下記参照）
- ・入力する添付文書情報が段落になっていない場合はリスト形式、レベル別明細のレベル 1 の何れの入力も可能であり、どちらを選択するかは、項目間の関係などを考慮して判断する必要がある。

将来の添付文書の改訂時にSGMLファイルも更新すること考えると、階層構造となる可能性の高い項目はレベル別明細を用いて処理することを推奨する。

例：警告の場合



```

</low6subitem>
  </low5subitem>
    </low4subitem>
      </low3subitem>
        </low2subitem>
          </low1subitem>
</Warning>

```

リスト形式で入力する場合に使用する。  
各レベルの解説は下記参照

レベル別明細を用いて入力する際は必ず半角で1を入力する（表示番号は"off"にする）
レベル1：1段落目
各レベルの解説は下記参照
レベル2：2段落目
各レベルの解説は下記参照
レベル3：3段落目
各レベルの解説は下記参照
レベル4：4段落目
各レベルの解説は下記参照
レベル5：5段落目
各レベルの解説は下記参照
レベル6：6段落目
各レベルの解説は下記参照

レベル6終了  
レベル5終了  
レベル4終了  
レベル3終了  
レベル2終了  
レベル1終了  
警告終了

#### 各ラベルの解説

ラベル名	タグ名称	解説
順序番号	<serialno>	半角で入力する。
項目名	<item>	添付文書に項目名を立てて記載している場合は、その内容を入力する。 項目名が無い場合は入力する必要は無い。
内容（警告）	<detail>	添付文書の内容を入力する。 項目によってラベル名は異なる。（タグ名称は同じ）

### 3.1.2.2.3 表の表現

表を表現するために、添付文書情報のDTDは、2つの方法を提供している。

#### (1) 表の内容を表形式でなくリスト形式で表現する方法

この方法は、表の中身を分解することにより表を構成する要素をデータベースの手法で取り扱うことが可能になるという利点がある。但し、この方法は印刷物にしたとき、スタイルシート等を準備しないと表形式を復元できないという欠点がある。

添付文書記載要領で「表形式」とされている箇所は、この方法で入力することが望ましい。

#### (2) 表形式のデータをそのまま表形式で取り扱う方法

(1)の方法と比較して印刷物にしたときに表形式に復元可能であるが、表の要素をデータベース的に取り扱うことが困難になるという特徴がある。リスト形式での表の取り扱い方法は、この手引きの別の箇所で説明しているので、ここでは、表形式のまま取り扱う方法を説明する。

表形式の場合、DTDは、表題部分、表内部、表の脚注部分の3つに分かれている。表全体は<tblblock></tblblock>で、表題部分は<simptblhead></simptblhead>で、表内部は<simpletable></simpletable>で、表の脚注部分は<simptblfoot></simptblfoot>で囲む。

表の構造 (例: 形状・構造等の表)

日本語ラベル名	解説
形状・構造等の表	表を表示させる場合には、 <Form-and-structure> <variablelabel onswitch="on">とする。
順序番号	1対多の表の場合。1対1の表にはこの項目がない。 半角で入力する。
表組	表を表示させる場合には、 <tblblock><variablelabel onswitch="on">とする。
表題	表題
順序番号	半角で入力する。
表題	表題を入力する。
</simptblhead>	表題終了
<simpletable>	表内部開始タグ
<simptblrow> <simptblcell>	表横入力開始タグ+横1列目
<simptblcell>	横2列目
<simptblcell>	横3列目
</simptblrow>	表横入力終了タグ
</simpletable>	表内部終了タグ
脚注	脚注
順序番号	半角で入力する。
脚注	添付文書で脚注がある場合は入力する。
</simptblfoot>	脚注終了
</tblblock>	表組終了
</Form-and-structure>	薬物動態の表終了

入力の考え方：テンプレートは1行3列のため、作成する表に応じて列、行の追加を行う。

列、行の追加の方法

1.列を増やす。

上記表の構造の横2列目か横3列目をコピー・ペーストして列を増やす。

2.行を増やす

<simptblrow><simptblcell>から</simptblrow>までをコピー・ペーストする。

セルの結合について

simptblcell のアトリビュートに結合する行・列を設定する。

rspan="0001" セルの縦結合、4桁の数字で結合するセル数を表す(0030まで設定可能)

cspan="001" セルの横結合、3桁の数字で結合するセル数を表す(030まで設定可能)

セル内の文字位置

simptblcell のアトリビュートに文字位置の設定をする

align="left"	横	左寄せ
align="center"	横	中央
align="right"	横	右寄せ
valign="top"	縦	上寄せ
valign="middle"	縦	中央
valign="bottom"	縦	下寄せ

表示例

1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5 6 7 8
横結合		
中央	縦結合 (下寄せ)	中央
右寄せ		左寄せ

サンプルSGML

```

<simpletable>
  <simptblrow>
    <simptblcell rsan="0001" cspan="001" align="left" valign="bottom">1 2 3 4 5 6 7 8</simptblcell>
    <simptblcell rsan="0001" cspan="001" align="center" valign="middle">1 2 3 4 5 6 7 8</simptblcell>
    <simptblcell rsan="0001" cspan="001" align="right" valign="middle">1 2 3 4 5 6 7 8</simptblcell>
  </simptblrow>
  <simptblrow>
    <simptblcell rsan="0001" cspan="003" align="center" valign="bottom">横結合</simptblcell>
  </simptblrow>
  <simptblrow>
    <simptblcell rsan="0001" cspan="001" align="center" valign="middle">中央</simptblcell>
    <simptblcell rsan="0002" cspan="001" align="center" valign="bottom">縦結合 (下寄せ) </simptblcell>
    <simptblcell rsan="0001" cspan="001" align="center" valign="middle">中央</simptblcell>
  </simptblrow>
  <simptblrow>
    <simptblcell rsan="0001" cspan="001" align="right" valign="middle">右寄せ</simptblcell>
    <simptblcell rsan="0001" cspan="001" align="left" valign="middle">左寄せ</simptblcell>
  </simptblrow>
</simpletable>

```

### 3.1.2.3 画像情報ファイルの記述

(1) 添付文書情報／DTDでは別途作成した画像ファイルをデータの一部として指定し、交換する事ができる。SGMLインスタンス中で画像ファイルを記述する方法は次の事例のとおりである。

(事例)

```
<detail>[ 形状 ] 代表的モデル S 202 を下記に図示 ) &enter; <graphic  
gfname="800173_2399007C1020_1_01_05_fig02.gif"></detail>
```

ここで"800173\_2399007C1020\_1\_01\_05\_fig02.gif"は別途作成した画像ファイルの名称であり、「システム」にファイルを提出する際、SGMLファイル等と同時に提出する。

#### (2) 画像情報ファイルの別名定義

画像情報ファイルをSGMLファイルに記載する方法は、実際の画像情報ファイル名をSGMLインスタンス中に記載するのではなく、通常はエンティティ定義により定義した実体参照名(エイリアス名:別名)を用いる。

(「医療用具情報提供システム」では、システムの機能制限の為、直接ファイル名を記述する必要がある)。

別名定義を用いて画像ファイルを記述する方法は次のとおりである。(事例) SGMLファイル(SGMLインスタンス)の最初の部分に次のとおりエイリアス名を指定する。

```
<!DOCTYPE MDEVICES SYSTEM "medical_device.dtd"[  
<!ENTITY fig01 SYSTEM "170039_1123700J1020_1_01_02_fig01.gif" NDATA GIF >  
<!ENTITY fig01 SYSTEM "170039_1123700J1020_1_01_02_fig02.gif" NDATA GIF >  
]>
```

ここで、<!DOCTYPE MDEVICES から始まり、]> で終わっているところまでが、文書型宣言部分集合と呼ばれ、DTDの1部分を構成している。添付文書情報のSGMLインスタンスは、必ず、この文書型宣言部分集合を初めに記載するようになっている。この文書型宣言部分集合では、参照すべきDTDを定義している。

次に

```
[  
.....  
.....  
>
```

で囲まれる部分に、このSGMLインスタンスで使用する画像ファイルの物理ファイル名と、物理ファイル名の別名(エイリアス名。この例では"fig01"、"fig02")を定義する。

DTD上では、画像ファイルは、

```
<!ELEMENT graphic -O EMPTY -- 画像情報用タグ 外部参照は、タグの属性で表現する -->  
<!ATTLIST graphic gfname CDATA #REQUIRED >
```

と定義されておりSGMLインスタンス中に次のように記述する。

なお、画像ファイルは、g i f, j p g形式で処理・作成されたものを指定する。



### 3.1.2.4 文字属性の指定方法

SGMLインスタンスはテキスト形式で作成されるので、例えば上付き文字、下付き文字、強調文字、下線、文字の色等の属性は特別なタグを用いて表現する必要がある。

添付文書情報用のDTDで定義されている文字属性を指定する方法を以下に紹介する。

#### (1)文字に対する属性（文字飾り等）

開始タグと終了タグで囲まれたインスタンス全体に対して使用できる文字属性

種類	属性名	選択値	初期値	Web 反映
文字色の設定	Color	Black Red Green Blue Yellow	Black	未反映
文字のスタイルの設定	charfmt	Std Bold Italic bolditalic	std	未反映

(事例)

<color=red> これは赤色の文字です</color>

※<color><charfmt>は現在 Web 上に反映していない属性です。

これは、将来的に添付文書の記載要項が変更になった場合等に有効になります。

・一文字単位で使用できる文字属性タグの一覧

文字属性の種類	タグ名	使用法	備考
強調文字	<bold>	<chr><bold>強調</bold></chr>	
斜体文字	<italic>	<chr><italic>斜体</italic></chr>	
下線	<under>	<chr><under>下線</under></chr>	
上付き文字	<sup>	<chem.><xup>2</sup></chem.>	
下付き文字	<sub>	<chem.><sub>2</sub></chem.>	
分数表現	<div>	<chem.><div><nom>3</nom><den>7</den></div>></chem.>	3/7 の意味

タグで表現される文章全体でなく、文章の一部の文字属性を変更したい場合、変更したい場所を<chr></chr>で囲み、強調文字は<bold></bold>、下線は<under></under>で囲んで記載する。

これ以外に文章中の一部の文字属性の変更として、上付き線として<above></above>等の指定も可能である。

(参考) 添付文書情報 SGML ファイルを添付文書の版下作成に使用する場合等を考慮して次の文字属性タグも用意されている。しかし、全角カタカナを半角カタカナに変換するために半角変換用のタグを使用することは推奨しない。これは全てのコンピュータシステムが半角カタカナを処理できるわけではないため、添付文書情報の SGML ファイルでは半角カタカナの使用を禁じている為である。

半角変換	<han>	<chr><han>全角</han></chr>	添付文書が半角カナを使用している場合、添付文書情報は、全角カナでなければならないが、添付文書では、半角カナであることを明示する。
外字	<gaiji>	<chr><gaiji>そう</gaiji>痔</chr>	添付文書が外字を使用している場合、添付文書情報は、ひらがな若しくは別の文字に置き換える必要があるが、添付文書では、外字であることを明示する。このタグの利用は、ユーザー依存。

## (2)化学式の表現例

化学式を記載する場合は、化学式全体を<chem.></chem.>で囲み、下付き文字は<sub></sub>、上付き文字は<sup></sup>で囲んで表記する。

### (事例1)

添付文書の記載：水酸化メチルの化学式は、CH<sub>3</sub>OH である。

SGML のインスタンス：水酸化メチルの化学式は、<chem>CH<sub>3</sub>OH</chem>である。

### (事例2)

添付文書の記載：水酸化メチルの化学式は、CH<sub>3</sub>OH である。

SGML インスタンス：SGML 形式：<chr><under>水酸化メチル</under></chr>の<chr><bold>化学式</bold></chr>は、<chr><under><chem.>CH<sub>3</sub>OH</chem.></under></chr>である。

## (3)特殊文字の記述

SGML は、タグ名を<>で囲んで表すため、通常の文書中に半角の「<」や「>」を使うことができない。これらの文字は文字エンティティと呼ばれる特殊な表現を用いて記述する。添付文書の DTD では、「&」、「<」、「>」、「改行記号」の 4 種類を特殊文字として定義してある。

「&」(半角)は&amp;

「<」(半角)は&lt;

「>」(半角)は&gt;

「改行記号」は&enter;

に変えて記述する (何れも&で始まり;で終わる)。

事例

文例：これらの各文書の中には>や<が含まれている。

しかし、&は面倒なので書きたくない。

SGML インスタンス：

これらの各文書の中には&gt;や&lt;が含まれている。&enter;しかし、&amp;は面倒なので書きたくない。

(参考)文字修飾等のタグ一覧

	SGML インスタンス用	
	開始タグ	終了タグ
文字	<chr>	</chr>
太線	<bold>	</bold>
下線	<under>	</under>
上線	<above>	</above>
外字	<gaiji>	</gaiji>
イタリック	<italic>	</italic>
黒	<chr color=black>	</chr>
緑	<chr color=green>	</chr>
青	<chr color=blue>	</chr>
赤	<chr color=red>	</chr>
黄	<chr color=yellow>	</chr>

化学式	<chem>	</chem>
分数表現	<div>	</div>
分子の式	<nom>	</nom>
分母の式	<den>	</den>
上付	<sup>	</sup>
下付	<sub>	</sub>

&	&amp;
<	&lt;
>	&gt;
改行	&enter;

画像 (GIF ファイル)	<graphic gfname=" 画像ファイル名" >
画像 (JPG ファイル)	<graphic gfname=" 画像ファイル名" >

## 3. 2 作成されたSGMLファイルの確認

### 3.4.1 SGMLパーサー

SGMLファイルはDTDで定められた規則に従って記述されている必要がある。開始タグと終了タグの対応が取れていない、指定されていないタグを用いる、タグの記載順序を変更して文書構造を変更する等、SGML及びDTDで定められた文法を外れたインスタンスでは、添付文書情報を再現できない。SGMLパーサーは、SGMLインスタンスが文法どおり正しく記述されているかどうかを確認するためのツールである。使用方法等は、「5.1 SPを利用したSGMLファイル文法点検の概略」を参照のこと。